

# Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日  
 会長：稲葉 徹  
 幹事：大嶽 達郎  
 クラブ広報委員長：鈴木 健司  
 例会日：毎週木曜日 PM12:30~  
 会場：ヒルトン名古屋



ロータリー：  
変化をもたらす

2017~2018年度  
国際ロータリーのテーマ  
ロータリー：変化をもたらす  
(ROTARY: MAKING A  
DIFFERENCE)

2017~2018年度  
名古屋瑞穂ロータリー  
クラブ会長のテーマ  
ロータリーの品格を高めよう!

事務局：460-0008  
 名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F  
 TEL：052-211-3803  
 FAX：052-211-2623  
 MAIL：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1835回例会

~ロータリー親睦活動月間~  
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2018年6月7日(木) 曇り 第43回

司会：長谷川隆会場委員  
 斉唱：「君が代」「奉仕の理想」  
 ゲスト：西川徹也さん  
 ビジター：名古屋RC 富田英之さん

### 会長挨拶

稲葉徹会長

皆さんこんにちは。今回は、24節気の一つ「芒種」についてとりあげたいと思います。芒種の「芒」とは、種や麦などイネ科の植物の穂先に付いている硬い毛(これを芒(のぎ)という)のことをい、芒種は稲や麦など、穂の出る穀物の種をまく時期を指します。



芒種は、天文学的には、太陽が黄経(太陽の横道上の位置)75度の点を通る時をいうとされ、今年は6月6日があたります。この時期は、そろそろ露の入る頃で、麦や稲などの種をまくのに適した雨が降り、天からの自然な働きが、この時期にすべからゆるもの成長を促します。蒸し暑さと雨の潤いにより、農作業も大忙しとなり、梅の実が黄色く色づきはじめ、蛍の光が幻想的な景色を生み出します。

この頃は、昔から芸事の世界では、稽古はじめを6歳の6月6日にするとう上手になる、といわれています。指折り数えるとき、6はちょうど小指が立つので、「子が立つ」のは縁起がいいからとされています。また世阿弥が記した能の指南書「風姿花伝」には、芸をはじめめるのは、数えの7歳(満6歳)からがいいとあります。

この時期の旬の食べ物としては、「あいなめ」がおいしいようです。江戸時代には、殿さまの魚だったあいなめは、秋冬の産卵期前の、旨味がたっぷり詰まった夏が旬です。鮮度が命で、活きのいいものを薄造りでいただくのもよし、煮物や木の芽焼きにするのもおいしいものです。私個人はあいなめの煮付けが好きで、魚屋さんで、生きている状態か、お腹に張りがあり、体の模様がくっきりして表面にぬめりがあるものが多いようです。又、この時期の旬の野菜は、「らっきょう」です。平安時代に中国から伝わったといわれており、旬は初夏から夏にかけてであり、胃もたれや食欲がないなどの夏バテのときに良く、カレーの付け合わせやビールの前菜としては最適です。口がさっぱりとし、甘酢漬けや塩漬、はちみつ漬けは保存食として最適であり、この時期に家庭で作られる家も多いと思います。らっきょうを食べ、これからの梅雨時を心身ともにさっぱりとして乗りきりましょう。

### 出席報告

星野一郎出席委員

会員65名 出席41名 (出席計算人数48名)  
 出席率 75.9% 5月31日は補填により85.2%

### ニコボックス

星野一郎ニコボックス委員

- ・夏バテにならないようにしましょう。 高村 博三さん
- ・6月5日は家内の誕生日でした。きれいな花をありがとうございました。 入江 理さん
- ・本日、卓話のブッキングが出来ず自分でさせていただきます。つたない話ですが よろしく御願います。 鶴田 浩さん

### 幹事報告

大嶽達郎幹事

- ・本日13:40から第12回理事会をヒルトン名古屋4F「藤の間」にて行います。
- ・次週6月14日(木)18:00からなごやか例会をヒルトン名古屋4F「桜の間」にて行います。

### 6月誕生日おめでとう

萩原 孝則さん 鈴木 健司さん 松波 恒彦さん  
 湯澤 勇生さん 花井芳太郎さん 長坂 邦雄さん

## 委員会・同好会報告

ゴルフ部会6月度(第387回)三好カントリー倶楽部 開催日:6月8日(金)

氏名	グロス	HDCP	ネット
優勝 泉 憲一さん	75	2.4	72.6
2位 田中 宏さん	81	7.6	73.4
3位 堀 慎治さん	74	2.4	73.6

7月ゴルフ例会は7月11日(水)「名古屋GC和合コース」にて開催されます。同日の17:30より総会を「蓬萊軒神宮店」にて行います。

卓話 特定非営利活動法人メイドインジャパンプロジェクト理事 鶴田浩さん

## 日本のものづくりとミラノサローネレポート

皆さんこんにちは。拙い話ですがよろしくお願ひ致します。今年度プログラム委員会をさせて頂いております。今日が最後の卓話をブッキングしないと日だったのですが、どうしても埋まらず、最後の日でもあるので、挨拶も兼ねて自ら卓話をさせて頂きます。自己紹介をします。私は8年前に入会させて頂きました。私の会社の事業の一つとして、最近日本でも著名なデザイナーさんと物づくりをして、発信しています。僕の生い立ちですが、高校の時ぐれていたので良い大学には入れませんでした。入学後、将来への危機感を感じ、先輩達とイベント会社を作りました。その会社は今もあり、創業35年を超える会社になります。実は当時の友人達と現在も共に事業をしており、つくづく友達や仲間は大事にすべきだと感じています。その後、建築学科に所属していた事もあり、建築の道に進む事を決めました。名古屋でかっこいい住宅を作っている会社で現場監督をやりたいと思い、加納工務店さんと、現場監督を勤めました。そこで建築のいろはをかなり一生懸命勉強し、2年で辞めさせて頂きました。その後外国へ渡って色々見て回るので、日本へ戻ってきてからも加納工務店さんから声を掛けて頂き、帰国後も12年間、加納工務店さんに勤めました。外国には、1年かけて、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパと放浪の旅をしました。私は美しいことや流行に関するトレンドが大好きだったので、海外で色々な影響を受け、一時はアメリカ人になりたいと思っていた程、日本はダサくてアメリカはかっこいい。ヨーロッパは更にかっこいい。とそんな風に思っていた時代もありました。そして、「リアルスタイル」という会社を立ち上げ、独立しました。当時、加納工務店さんには著名な建築家やスタイリッシュな建築家が多く、ガラスとコンクリートで作られたシャープでデザイン性の高い空間等を作っていたのですが、住環境という点においては、そこにはインテリアは介在していないと感じました。私は、住宅というのは、手に触れる物があって、インテリアがあり、庭などのランドスケープがあって初めて住宅と呼べるのではないかとつくづく思っています。私の思う理想を実現できる会社を作りたいと思うようになったのが、独立するきっかけです。実家が岡山の家具メーカーであった友人と学生時代から会社を協同経営していました。その彼が出資に協力してくれる事になり、オリジナルの、建築からランドスケープ、そして手に触れるテーブルやインテリアまでを一貫して手掛ける業態を16年前に創業しました。現在は、自社の「リアルスタイル」をブランディングして、日本を代表するインテリアブランドにしたいと思っています。「リアルスタイル」は、本物と現実を掛け合わせる。という意味を込めています。日本の住空間はまだ貧困であり、私達の手でヨーロッパや欧米の様な、上質で豊かな暮らしを、もっと多くの人に味わってほしいという想いをコンセプトにしています。また、「Feel real」、「Feel Japan」という想いもあり、日本のアパレルでは、イッセイミヤケさんやヨウジヤマモトさん、川久保玲さんなどのトップデザイナーがおり、世界に発信しているブランドがあります。しかし、日本のライフスタイルと言うと、なかなか代表できる物が無いと思います。アパレル界に続き、今後私達も日本を代表できる様な存在になりたいと思っています。

16年前、東別院の土地内に一番初めのお店を作りました。廃墟だった建物を、東別院さんのお寺から借りてリノベーションし、広さは約100坪あります。次に出店したのは仙台です。仙台を訪れた際、たまたま昭和12年に建てられた古い建物を見つけたのです。そこが気に入ったので、事業計画も考えずに出店しよう決めました。仙台店の経営は、大変な苦勞をしました。震災の際は、地元の方々に協力して乗りきる事ができ、とても感謝しています。現在では地元の方の雇用も行ってあります。私はそれまで、会社をブラ

ンディングして世界的に成長させたいという想いに捉われおり、雇用は外地だと考えていました。しかし、仙台に出店した事を機に、やはり雇用を整える事が一番世の中の為になるのではないかとひしひしと感じ、気付くことができ、本当に有り難く思っています。その後、多くの恩恵に預かり、小さい店ながら売上は安定しています。また、5年前には金沢に約100坪の路面店もオープンしました。ここは、地元の方達と協力し、伝統工芸をしっかりと発信をしている店です。金沢西インターから、片町に入るちょうど通り沿いにありますので、もしお近くを訪れた際はお待ちしております。名古屋では、太白区にカフェと併設したお店もあり、オープンして10年程経ちます。最近では、仙台の土地を紹介してくれた方で、名古屋店のパルコに勤めていた担当者が出世し、現在吉祥寺の店長になった方がいます。その方から、吉祥寺のパルコの経営を立て直す為に、どうしても出店して欲しいと頼まれ、引き受ける事になりました。一年間は赤字で苦にしましたが、現在は健全な経営が実現しています。このように店舗を拡大するにつれ、岐阜市からも岐阜のライフスタイルショップをやらないかと声をかけて頂き、出店しました。こちらは岐阜駅の中にあり、今年は5年目になります。

新たなインテリアのアイテムを色々探すが当たって、国内外問わず様々な展示会に足を運んでいます。12年間、スペイン製の伝統工芸品の代理店を請け負っています。従来のスペイン製のアラブの柄ではなく、日本のトップデザイナーにデザインをして頂き、スペインで製造している商品等があります。パレンシアの展示会では、とても心地の良いハンモックを見つけています。現在マスコミにも取り上げられ、注目されています。皆さんも是非体感してみてください。また、日本のデザイナー達、また日本の色々な産業と協同し、ショップならではの、使い手の声をしっかりと聞いた物づくりもしています。あるテーブルがあり、胴色に光っている部分は、実は名古屋で製造業を営んでいる伊藤豪さんに作って頂きました。名古屋の製造業と福山の木工の家具産地、そして岐阜の成形合板とも協同して作った物です。また著名なデザイナーと組んで物づくりをしていく事もあります。最近では、川上元美さんという日本を代表する世界的なデザイナーとたまたまご縁があり、一緒に仕事をさせて頂きました。また、細い美濃焼や伝統的な技法で器を作ったり、名古屋の靴職人達とスリッパを作ったりもしています。お店を初めた当初は、国内外のセレクトで、主に様々な海外の良い製品を輸入していました。しかし、段々と日本の物づくりはとても素晴らしいと気付き、日本各地で様々な取り組みをするようになりました。日本の素晴らしい物で、例えば漆があります。皆さん日常で使っていると思いますが、複数の産地があり、代表的な産地は輪島塗や津軽等があります。漆は英語で"Japan"と言います。現代は冷蔵庫があるので、漆の器の特性が注目される事はあまり無くなってしまいましたが、漆というのは超高殺菌という性質があります。器に使われる溶剤は科学的な溶剤が多く、乾燥によって固まりまる事に対し、漆は湿気を与えて固まるのです。メンテナンスが出来て、長く使える類希なる素材なんです。漆の器は、鈴木さんの蓬菜軒でもしっかりメンテナンスされ使われていると思います。

さて、今日のテーマである日本の物づくりについてもう少しお話します。最近私も知った事なのですが、デンマークのコペンハーゲンの国立美術館で、3年に渡って日本展を催しています。普通はどここの国立美術館でも一國にフォーカスして展示するような事はあり得ません。では、何故デンマークの美術館では日本がこれほどフォーカスされたのでしょうか。現在、デンマークはディッシュデザインのデザイン大国であり、日本はデンマークのデザインを真似ている所もあります。しかし江戸時代中期、デンマークという国は酪農と農業しか無かった国でした。イギリス、フランス、ドイツに囲まれ、どの産業も発展していませんでした。そこで、国策で世界に人を派遣し、日本国にも渡ってきました。当時、ゴッホが北斎の浮世絵をモチーフにし、インスパイアして絵を描いていた様な時代です。そんな日本の美術品が多く生み出された時代に、多くの使節団をデンマークは日本に送り、金物や和服の柄等の技術を学びました。その時代に、日本のデザインを全て取り入れて、今のディッシュデザインのデザイン大国へと発展させてきました。実はしっかり見てみると、コペンハーゲンは、日本の有田焼きとそっくりである事が解ります。ディッシュデザインは、70年程前から、素晴らしい建築家やデザイナー達である、ウェグナーやヤコブセン等により、モダンデザインを確立しています。イタリアはとてもクラシックな国で、本来であれば家具も全てクラシックです。しかし現在ではデンマークのモダンデザインにインスパイアされ、イタリアンモダンが確立されました。私達は、毎年のようにイタリアのミラノサローネに行きます。今の世界一のデザイン、インテリアの展示会と言われていますが、実は元は江戸時代の日本だったという事を知り私は愕然としました。この誇るべき日本の物づくり、日本のライフスタイルをもっと磨いていきたいと思いました。そして、当時私達がヨーロッパに憧れたように、まだまだ発展途上にある東南アジアや、高音多湿な気候にある国にこの文化と技術をもたらし、人々の暮らしを豊かにしていく事が僕らの使命ではないかと思っています。

一般的な住宅の設計会社と当社の住宅の設計の違う所は、当社の場合、身一つで引越し出来る所まで設計できる点です。カトラリー、テーブル、家電もデザイン思考で考えた物を用意させて頂き、家具インテリアからランドスケープまでの全てを設計させて頂こうという思いで建築設計しています。手掛けた住宅の建築主の中には、当社で二世帯住宅の設計を頼まれ、建築したのち、彼は当時勤めていた会社を辞め、当社に入社した方もいます。現在は、リノベーションいわゆる改装力を入れており、特に吉祥寺店には力を入れています。また、街作りも含め、仙台の津波があった地域の江戸末期の蔵を事務所へ改装し、東北では注目されています。こういった活動が広がっていく中で、12年前、デザインでこの国を変えていこう、この街を変えていこうと「名古屋デザインウィーク」というプロジェクトを仲間達と立ち上げました。名古屋のショップ、デザイナー、そして事業者の方達を集め、デザインの物づくりの大切さを盛り上げていく活動をしています。地域の生活文化が向上すれば、私達の競争者でもある、ニトリやホームセンター等で安く済みますのではなく、もっと上質な物を買って頂けるのではないかと考えています。その為に皆で手を組んでムーブメントを起こそうと、ボランティア活動を12〜3年前から始めました。この活動をきっかけに、東京のデザインウィークという団体の理事を勤めることになりました。その中で日本の著名人達やトップデザイナー達と知り合う事も

できました。ここ数年で学んだ事は、「リアルスタイル」という田舎の小さな会社がこの様な人達と知り合えたのは、世の中を良くしていきたいという大義があり、そこで集まった仲間だからこそ知り合えたのだという事です。また最近では、名古屋に「愛知インテリアショップコミュニティ」という、上質な暮らしを提案するインテリアショップのネットワークも作りました。ここで今取り組んでいる事を紹介します。かつて日本も戦前までは、皆人を家に招いておもてなしをしていました。そこには漆や陶器の器、お膳がしっかりあり、調度品や掛け軸の他に素晴らしい工芸品もあり、お客さん用の布団がありました。そういう時代を今の形で復活させたいと考えています。もう一度、家にゲストを招くという文化を全国プロモーションしていこうと、各地の日本の団体で取り組んでいます。人を家に招くという事にすれば、絵を飾ったり、良い椅子を買う事によって、「良い絵を買ったから家に遊びに来てよ」「ものすごく座り心地の良い椅子があるから座りに来てよ」と、人々のコミュニケーションにも繋がりが、生活の質が上がる。すると国の質も上がり、最終的に僕らの売上も上がっていきます。この様な様々な活動を総称して、12年前に「メイドインジャパン」というNPO法人を立ち上げ、その代表を勤めています。作り手と使い手、デザイナー、各地の事業者達をそれぞれマッチングして活性化するためのプロジェクトに取り組んでいます。ここでも全国の色々な事業者と知り合い、様々な物づくりが出来ています。また、名古屋市でも名古屋の魅力を上しようとして「魅力向上室」というプロジェクトを立ち上げました。このメンバーの中で、私は審査員もさせて頂きました。こうして地域を活性化する活動は、私達の商売が潤う事に繋がっていきます。

さて、ご存知ではない方もいらっしゃると思いますが、デザインやライフスタイルの祭典で、世界一の展示がミラノにあり、先日行って来ました。年に一度行われ、今年最高入場者数を記録しました。6日間で43万人が訪れます。世界的にはまだ大きな展示会場がありますが、東京のビックサイトと比較するとその規模は4倍〜5倍あります。ビックサイトでも丸一日歩いても回れない事はご存知だと思いますが、ここでの展示物は、全て見ようと思うと毎日20km歩いても5日間はかかります。世界中の企業1841社が、この展示会場で世界最高峰のインテリアの提案をしており、188ヶ国の人々がここを訪れます。もちろんこの地域で有名なカリモクさんも毎年発信しており、他にも日本のリッツウェルという会社も注目され初めており、ここ数年で日本のインテリアも進出しつつあります。一方ヨーロッパのインテリアメーカーは、ルイ・ヴィトンやモエジャンドングループ等と協同し、大規模なスケールの中で物づくりをしています。中には車メーカーとも手を組み、素晴らしい技術を駆使して作られた金物等があります。日本人の若手デザイナーも頑張っていてはいるのですが、日本の国内だけで作っている物づくりと比べると、全く太刀打ちが出来ないのが現状です。展示会では、面白いドレッサーや、キッチン等、我々の想像のつかない様な物を見る事が出来ます。またフィエロ・ローという展示会場の他に、市内の街全てがデザインミュージアムになっています。様々な住宅やお城、公共施設を使って400以上の会社が街中全体にブースを設置しています。インテリアだけではなく、アパレルや家電メーカー、車メーカーも全てここに結集しています。日本の展示物ですと、トヨタのレクサスを見る事ができ、多大な費用を投資して発信しています。また、マツダや、全ての家電トップメーカーがデザインを発信しているといっても過言ではありません。家具メーカーのカリモクさんは、会場内と市内の両方で展示しており、とても良い提案をしており、日本企業、日本のデザイナーも活躍しています。ソニーさんは、若手の優秀なインハウスデザイナーやクリエイターを結集し、環境を提案していました。光と香りと湿度に注目し、宇宙の様な異次元な空間を発信しており、素晴らしい物でした。私達の様な業界ではない方も十分楽しめる6日間だったと思います。今回の展示会の中で最も感動したブースは、ルイ・ヴィトンです。アパレルの一流ブランドは、大抵バレスを借り、莫大なお金を投資して、最高のデザイナーとマッチングして最高物づくりを発信しています。その中でもルイ・ヴィトンは、革で出来たミラーやバスケット等、一流のデザイナーと組んで躍進的な環境を提案しています。そこで私が一番びっくりしたのが、ルイ・ヴィトンのブースだけ、世界各国のトップ営業マンがそこに集まっていた事です。銀座の松屋のトップ営業マンや、中国、ドイツ人、南米の人もアメリカ人もトップ営業マン、ショップの営業マンが集結していました。通常展示会は、見て参考にしてもらった所で留まるのが普通ですが、ルイ・ヴィトンはそこでしっかりと販促活動も行います。営業から値段交渉まで徹底しており、その徹底した商売において、流通、販売まで一環して手掛けているルイ・ヴィトンというのは世界一の企業だと納得がいきます。またインテリアのトップブランドであるポルトロナフラウ等、非常に多くのブランドを持っているだけでなく、完璧な営業で、多くの中国人が購入していました。エルメスもインテリアを手掛けており、値段としてはエルメスの方が値は張るのですが、ルイ・ヴィトンとは違い、営業や販促活動は一切行っておらず、2つのブランドのその差に感動しました。私自身はルイ・ヴィトンの商品は一つも持っていませんが、とても感銘を受けました。他にも、トップブランドであるアルマーニ、エトロ、フェンディ等も、流行のインテリアを提案しています。そこには本当にラグジュアリーで楽しい空間があります。海外も面白い事がたくさんありますが、日本も素晴らしく、自信と誇りを持って我々も活躍していきたいと思っています。ご静聴ありがとうございます。

## 例会のご案内

■今週の行事	6月14日(木) なごやか例会
場 所	: ヒルトン名古屋 4階「桜の間」
時 間	: 18:00-20:00
■次週の行事	6月21日(木) 第5回クラブフォーラム
	(委員会報告と次年度行事予定)
■次々週行事	6月28日(木) 下期納会
場 所	: か茂免
時 間	: 18:00-20:00